ももくりさん

「３月だなぁ、そっか、桃かぁ」
「桃栗三年柿八年、梅は酸い酸い十三年とかいいますね」
「ええっ！　桃栗三年柿八年、梨の馬鹿めが十八年じゃなかったっけ？」
「それをいうなら、桃栗三年柿八年、柚子は九年で成り盛る、梨の馬鹿めが十八年っていう具合に…」
「え？　柚子は九年で成り下がるんじゃ？」
「語呂の関係上、最後のはなんかひどい言われようですね」
「だからぁ、なんでそんなにかかるのかって怒っているのだー！」
「のだーって言われても、長いものは長い」
「うん、だいたいなんでそんなに時間がかかるの、そんなに長い間木にぶらさがっていられないよ」
「いや、実が成るまでにはそんだけ歳月がかかるって話じゃない？　誰もぶらさがれって言ってはいない」
「そう、そんなに実がぶら下がっていたら巨大な梨とか梅とかになって、考えただけでも唾が湧き出るぅ」
「おいしそう？」
「酸っぱいの！　梅は酸っぱそうだし、梨は芯のところがりってやったらやっぱ酸っぱそう」
「じゃあ、３年ものの桃あたりだったらほどほどに巨大でいい感じかも」
「うん、スイカくらいの大きさの桃だったらいいよね。それよりもう一回り大きいと切ったら血が出てきそう」
「案外桃太郎はそういう巨大な桃が過去に実在していたことを顕しているのかも知れない、とは思わないかな？」
「思わない、どーせおっきい桃って孕んだお腹を意味しているってことじゃないの？」
「ほうほう、そうなると川をどんぶらこっこと流れてきたものは桃じゃなっくて」
「おなかっ！！　って言うか土左衛門。それでせめて子供だけでもって帝王切開したらなんと生きていたってことくらいに思うのが一般的でないの？」
「なるほどぉ、でもなんで土左衛門っていうのかなぁ？」
「むむっ、これはきっと某土左衛門って有名な水死体の人が過去にいたからか、戯曲にでてきたとかじゃないのかな？　でもま、自分で土左衛門っていった以上一番もっともらしい話では成瀬川土左衛門って力士が色白で水ぶくれな太り方をしていたから、水死体のことを土左衛門っていうようになった、というらしいのです、ということにしといて」
「ふーん、それにしてもおっきい桃があったわけじゃあないんだ、桃源郷とかいったら仙人の住まう楽園だけど、そこ行っても大きな桃に出会わないのかなぁ」
「桃はあれくらいでちょうどいい、もしおっきい桃だったら花もおっきくなって飾ると不自然」
「どこに？」
「桃と言ったら桃の節句でひな祭り、お内裏様とおひな様の間にとっくりっていうか酒器に挿してあるじゃないのさ、知ってる？　あれはなんにせよお酒とセット。桃は邪気を祓うものだから、本来白酒じゃなく桃の花を浮かべた桃酒を飲んでいたことに起因するの！」
「でもおっきくってもいいんじゃ…」
「大は小を兼ねないの！」
「それを言うなら柄杓で耳掻きはできない…」
「あ、大は小を兼ねる、のか。でもとにかくきっと大味な桃になること違わない。大きくなると甘味が拡散されてただでかいだけの水っぽい桃になっちゃうぅ！」
「活性酸素を送ってやると巨大にならないかな？」
「そんなん金魚じゃあるまいし、単に早く実が熟して腐っちゃうだけっぽい。ま、三月三日は金魚の日でもあるけれど」
「うーん、大きくならないかぁ」
「でも、梅が十三年かかって大きくなったらこっちは逆にむちゃくちゃ酸っぱそう」
「それは単に口いっぱいに齧りつけるイメージがあるからだけなのでは…」
「うーん、きっとスイカくらいの梅干ができるなぁ、でもそれ以前に梅干になるのかなぁ…」
「桃だってそれだけでかいときっとすごい桃缶ができるだろうなぁ」
「そうだよね、きっと普通の缶詰の大きさだと中身はその円筒形に切られた桃がごろんと１個入っているんだ」
「うん、いい感じだ」
「でも、そんなにおいしくないような気がする。だって桃缶でたまに色が紫になってるし」
「それは色素が亜鉛と化学反応を起こしただけで無害」
「無害っていわれてもなぁ、一緒に葡萄が入っているなら全然気にしないけれど」
「なるべく色づかないうちに缶詰用の桃は収穫されるからそうそう変色はない筈だ」
「となると缶詰の桃ってまだ未熟なの？　だからシロップで甘味を補強しているのかなぁ？」
「それは言い様、きっとその方が実もしまっていて食べ応えがある」
「ふーん、さ、でも桃の節句ってわりには桃食べない」
「そりゃ、季語でいうと桃は秋、っていうか桃がなるのは初夏から秋！　桃の花、で季語は春」
「あ、そっか。そういやそうだ、花を飾っていてそこに実があるわけない」
「そ、今日はおとなしく桃の花を眺めましょう。三年桃の探索はまた次回ということで…」
「うーん、残念。あれ？　わたしは別に巨大桃に気はないの！なんでそんなに時間がかかるんだってことを訊きたい！」
「だからぶらさがっているんじゃないから…。それに桃は三年で早いほうだよ」
「なにごとも成果を上げるには時間がかかるって意味のことわざのわりには、おいしそうな想像をさせるところがまた憎い」
「なにもそこまで言わなくても」
「あー桃が食べたい！」
「つまりそういうわけだったんだ…」

おしまい

Maki Rouel fin 2001,1,27 depuis 2001,2,26